

## NHK海外情報発信強化に関する検討会（第8回）議事要旨

### 1. 日時

平成28年5月9日（月）14時00分～15時40分

### 2. 場所

総務省11階 第3特別会議室

### 3. 出席者

#### （1）構成員

多賀谷座長、青山構成員、岡構成員、坂村構成員、鳶構成員、高島構成員、野上構成員、原構成員、平澤構成員、マリ構成員、水越構成員

#### （2）オブザーバ

大鷹外務副報道官（外務省）

#### （3）プレゼンテーション

荒木理事、望月国際放送局専任局長（NHK）

#### （4）総務省

高市総務大臣、松下総務副大臣、輿水総務大臣政務官、太田総務大臣補佐官、安藤大臣官房総括審議官、今林情報流通行政局長、吉田大臣官房審議官、椿総務課長、長塩放送政策課長、井幡放送コンテンツ海外流通推進室長、金澤国際放送推進室長

### 4. 議事要旨

#### （1）高市総務大臣挨拶

#### （2）NHKからの発表

荒木理事より資料8-1に基づき、中間報告後のNHKの取組と今後の取組予定について説明が行われた。

#### （3）意見交換（構成員の主な発言は以下のとおり）

#### 【青山構成員】

- ・ 中間報告公表から1年4ヶ月の間本会合が開催されず、本日開催されることになったのは、どのような意義あるいは理由があるのか。検討会の委員としては、国民視聴者に対する責任もあり、確認したい。
- ・ 昨年12月28日の「日韓合意」があった時アメリカに滞在していたが、その報道ぶりに驚愕した。アメリカでは「日韓合意」が大きく報道され、外務大臣の「軍の関与の元」という口頭での発表とその外務省の公式の英訳を受けて、「日本は韓国の主張をすべて認めた。」「諸説ある慰安婦と呼ばれた方々の数についても20万人は確定だ。」「日本が10

億円ではなく10億ドル支払う。」など、客観的に言って事実ではない報道がされていた。NHKワールドTVの「NEWSROOM TOKYO」や「GLOBAL AGENDA」では、「日韓合意」についてどのような報道をしたのか。

- ・ 「国際戦略調査」の項目には、歴史面についての項目がない。
- ・ 本検討会は、放送内容についてNHKの自律性を尊重した上で、例えば歴史問題について、中国や韓国のプロパガンダに対して言われたままにするのではなく、もう少し客観・公平にすべきという志があったはず。公平を期するというのは当然のことで、その一般論で終わったら日本の公平な立場を世界に発信することはできない。その上でということを考えるのが、本検討会である。

#### 【岡構成員】

- ・ 先日、ニューヨークに滞在していた際に、NHKワールドTVを視聴していたが、1～2年前に比べてだいぶよくなった。もちろん、番組編成については改善して欲しい部分もあり、また北米の放送対象地域をもう少し広めたほうがよいと思うが、ステップ・バイ・ステップでできる限り改善していただいたと感じた。
- ・ 放送による発信とコンテンツ展開によるシナジー効果を期待して、NHKとBEA Jが連携して行くことが必要。
- ・ NHKワールドTVはどの程度の「赤字」なのか。
- ・ 全ての番組を英語音声にすると日本語に接する機会がなくなる。コンテンツによっては音声は日本語とし、字幕を外国語にするなど、使い分けた方がよい。
- ・ 何でもNHKにやらせるのは無理。インターネットは、NHKとは別の組織に任せた方がよいのではないか。

#### 【坂村構成員】

- ・ 「国際戦略調査」は、NHK以外の者が調査すべき。自己評価も大事だが、総務省など第三者が調査するべきではないか。
- ・ NHKワールドTVの役割は、①海外に向けて日本を知らせること、②在留邦人に故郷の番組を提供すること、③海外に日本の視点を伝えること、④在留邦人に滞在している現地の情報を知らせること、だと思う。
- ・ 海外に向けて日本を知らせる番組や在留邦人に提供するための番組は、日本国内の放送番組をそのまま流せば良いので、日本で制作する独自番組を増やす必要はない。NHKワールドTV独自で制作する必要がある番組としては、海外で制作するもの。BBCは香港などで番組制作して、イギリス人としての視点を伝えるメッセージを相手国に伝達している。
- ・ 在留邦人に滞在している現地の情報を知らせるためには、これまでも何回も言っていることだが、番組への字幕付与が必要。また、字幕は、英語音声には日本語字幕、日本語音声は無理にアテレコせず英語字幕として、対訳の字幕を全ての番組に付けて欲しい。自動翻訳のデータ資源としても、英語教育等にも役立つ。
- ・ ネットは重要。ネット時代の放送を考えることが最も大事であり、もっとそちらの方向に誘導すべきである。ネットを充実させれば、放送電波の（海外での）獲得のために、無理する必要はない。電波にかかる金を減らして、字幕などを充実させて、ネットでやった方がよい。

#### 【高島構成員】

- ・ 国内視聴環境整備について、CATV等による580万世帯や首都圏等を中心とする大手ホテルにおける視聴を除くと、日本にいる外国人がNHKワールドTVを視聴できる機会はほとんどない。東日本大震災の際に、東京駐在のEU大使が東北で休暇を取っていたが、英語による情報が一切流れてこなかったと聞いた。デジタル放送になり帯域幅が広がり、BSではチャンネルを分割して同時に複数番組放送することも可能となっている。今般熊本大震災があり、2020年のオリンピックに向けて更に訪日外国人が増えることもあるので、チャンネルのあり方について柔軟に考えて頂き、国内のどこのテレビ受像機でもNHKワールドTVの英語のニュースを24時間見られるようにして頂きたい。
- ・ NHKワールドTVで字幕付与をもっと活用して欲しい。英語だけでは理解できる人は限定される。スペイン語、アラビア語、フランス語、中国語もあってもよいかもしれない。

#### 【野上構成員】

- ・ 「GLOBAL AGENDA」の番組の対象は、日本、アジア関係に絞られている。世界が関心を持っているのは、難民や中東の問題等。そこをNHKとしてどう考えるか。対象を絞るのか、あるいは世界で関心のある 이슈に広げるのか。
- ・ 伊勢志摩サミットについても放送するとのことだが、例えば女性やグローバルヘルス等に話を広げて放送するのか考えて欲しい。
- ・ 日本を紹介するというミッションは分かるが、BBCやCNNは自国の紹介はしていないが、それでもグローバルな存在である。

#### 【原構成員】

- ・ NHKが実施している「国際戦略調査」は、どこが調査したのか。
- ・ 欧米ジャーナリストによる研修とは具体的にどういうことをしているのか。
- ・ ニュースに関して、各国語のウェブサイトにおける翻訳チェックは誰が行っているのか。翻訳をチェックする人は、海外で採用されたのか。

#### 【平澤構成員】

- ・ フェイスブックにおいて、NHKワールドTVには65万の「いいね」が付いているが、NHKはコンテンツ発信力を持っているのだから、もっと注目すべき映像を使えば、VODに誘導できる。VODの視聴回数は2万回/週だが、子供が制作した映像でももっと視聴回数がある。

#### 【マリ構成員】

- ・ 国際放送の部署には、どの程度英語ができる方がいるのか。英語で放送を見ながら納得できる方々がどれだけいるかということが、すごく大事。
- ・ NHKのスタッフは努力していると思うが、誰に向けて見たいか国際放送と欲しているのか明確ではなく、そここのところの番組編集ができていないような感じなので、番組の中身、クオリティ、内容にずれが生じている。海外特派員経験者などをディビジョンメイキングの場に置かないといけない。
- ・ 北米での受信環境整備については、テキサスやフロリダ等中部が進んでいない。

- ・ 国内放送において、「考えるカラス」などの科学番組はわかりやすくやっているが、外国人には日本は科学の国というイメージがあるので、科学番組をもっと放送してほしい。
- ・ 語学の教育番組では、もっときちんとした日本語を話せる外国人の方々に出演して頂いた方がよい。私が日本語を勉強した時はNHKを視聴して日本語を覚えるよう言われたぐらい、その頃の日本語は質が高かった。

#### 【水越構成員】

- ・ 放送媒体として、NHKワールドTVはマイナー。媒体としてのNHKのほかに、コンテンツ制作者としてのNHKがあると思う。せっかく色々なコンテンツがあるのだから、外国のメジャーなチャンネルを通じて、またはインターネットという強力な媒体を通じて、ということ意識していった方がよい。
- ・ また誰を視聴対象とするのか。あまねく全ての人を対象にはできない。視聴対象によって、放送する番組も変わるのではないか。  
訪日観光客を一つの認知のきっかけとして利用するのは良い自然な考えだが、旅行はイベントであり、日常的に実施する訳ではない。どこのタイミングでプロモーションを実施すべきか、調査してはどうか。

#### 【多賀谷座長】

- ・ NHKワールドTVに関する認知度・視聴経験についての調査だが、NHKが平成25年度に実施していた「視聴実態調査」と本日NHKから説明があった「国際戦略調査」は、比較できるものなのか。